

ヒロシマ=1945年8月6日8時15分

ナガサキ=1945年8月9日11時02分

核兵器のない世界を

ヒロシマ・ナガサキはよびかける

人類生存のために



コレガ人間ナノデス
原子爆弾ニ依ル変化ヲゴラン下サイ
肉体ガ恐ロシク軀殻シ
男モ女モスベデーツノ型ニカヘル
オオ ソノ真黒焦ゲノ滅茶苦茶ノ
爛レタ顔ノムクダ唇カラ洩レテ米ル声ハ
「助ケテ下サイ」
ト カ細イ 静カナ言葉
コレガ コレガ人間ナノデス
人間ノ顔ナノデス

ちちをかえせ ははをかえせ
としりをかえせ
こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる
にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを
へいわをかえせ



原爆は、爆発とともに、巨大な火の玉となり、強烈な熱線と放射線をだし、また強い爆風をおこした。

爆風は、広島で爆心地から5キロメートルはなれた窓ガラスをこわした。熱線は、広島で爆心地から3.5キロメートル、長崎で4キロメートルの地点にいた人にも、やけどをおわせた。

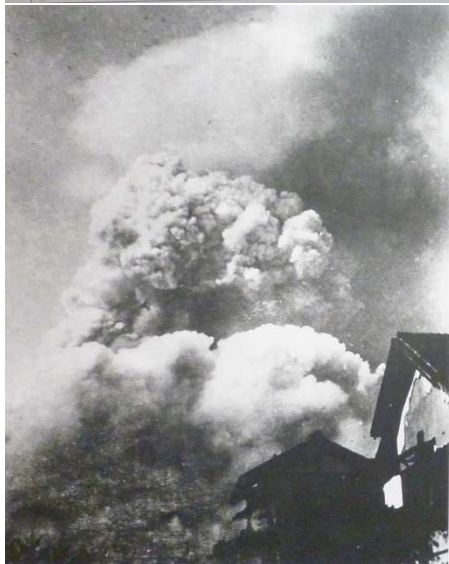
原爆の被害は、人、すべての生物、自然環境の全体におよび、かろうじて生き残った被害者の生活手段を、徹こそき破壊した。また、地域社会も破壊しつくされ、被害者の多くは住居・職場をなくしただけでなく、家族はもちろ、たよるべき親族、隣人、友人も全滅させられてしまった。

しかも、原爆の被害は、これだけにとどまらない。原爆は、巨大な爆発力とともに、放射線による特別な被害をもたらしたのである。

原爆の瞬間放射線は、爆心地から1キロメートル以内ではほとんど致死量に達すると同時に、生きのびた人びとにも、残留放射能が、長くつづく恐ろしい影響をあたえた。放射線による被害は、原爆が投下されたとき広島・長崎の市内にいた人びとだけでなく、被爆直後、両親や知人を探しもとめて多いた人びと、また、救済活動にあたり、死体や建物の残骸などの処理に奔走した人びとにも、ひろくおまんだのである。

広島・長崎への原爆投下から40年以上たったにもかかわらず、放射線による被害は、いまなおつづいている。

核戦争阻止
核兵器全面禁止・廃絶
被害者援護・遺棄
原水爆禁止日本協議会



広島、長崎への原爆投下

1945年8月6日広島、8月9日長崎。二つの町は、アメリカ空軍機が投下した原子爆弾によって壊滅した。広島、神田橋のたもとから見た原子雲。1945年8月6日午前8時17分ごろ。撮影：松重三男

長崎の原子雲。撮影：米空軍



原子雲—広島

広島市上空にわきあがる原子雲。雲の下に広島市の市街が見える。撮影：米空軍

NO. 1

核兵器のない世界を

NO. 2

広島・長崎への原爆投下

NO. 3

原子雲 広島



NO. 4

御幸橋 広島

4 御幸橋—広島
 激爆と猛火の中から、ぼろぼろになって、皮膚がたれさがった人びとが現れてくる。歩けなくなった負傷者が溢りこみ、横になって傷のたれをうめていった。一人の母親が死んだ子どもを抱え「目をあけて、目をあけて」とつぶやいていた(写真中央の髪をうしろにたばねた女性)。傷心街から南側の2.2キロメートル。1945年8月6日午前1時ごろ。撮影—松重真人



NO. 5

応急手当 広島

5 応急手当—広島
 無傷で残った部分に、面をばらばらにひきはぎっていた。敷居用の板瓦を渡るだけの応急手当てであった。1945年8月6日午前1時過ぎ。撮影—松重真人



NO. 6

広島街

6 広島街
 市内本通り2丁目から西に北へ、想像がうかがえる。また煙が立ちのぼり、人びとらしい影の残った。傷心街から東寄り300メートル。1945年8月7日暮ころ。撮影—伊田南雄



7

翌日の爆心地付近—長崎

爆心地の周辺では、燃え尽きたものはすべて燃え、死者の多くは空をつかむまで、あるいは逃げようとする動作のままで焼けていた。1945年8月10日正午ごろ。撮影—山岡謙介

NO. 7

翌日の爆心地付近
長崎



8

焼死した少年—長崎

広島島の熱線で焼死された少年は、直後の熱線と火災により炭と化した。爆心地から南西700メートル、約1000坪。1945年8月10日。撮影—山岡謙介

NO. 8

焼死した少年
長崎



9

背なか一面の熱傷—広島

ひどい熱傷を負った者はみな、痛みをこらえやすい姿勢のままだに身じろぎすることもなかった。そして、つぎつぎに息をひきとっていった。広島市内賀茂町。1945年8月7日。撮影—尾崎武東

NO. 9

背中一面の熱傷
広島



NO. 10

動員学徒の女学生
広島



NO. 11

母と子 長崎



NO. 12

市内電車と乗客 長崎



13 支援を待つ—長崎
 空襲後—空襲をへて一歩も動けなくなった数人が暮らした町（長崎）の焼け跡に、支援を待つ人々が見え隠れしている。1945年8月10日（午前）撮影。撮影—山崎寛治

NO. 13

支援を待つ 長崎



14 手当をまつ母子—長崎
 空襲後—空襲をへて一歩も動けなくなった数人が暮らした町（長崎）の焼け跡に、支援を待つ人々が見え隠れしている。1945年8月10日（午前）撮影。撮影—山崎寛治

NO. 14

手当を待つ母子 長崎

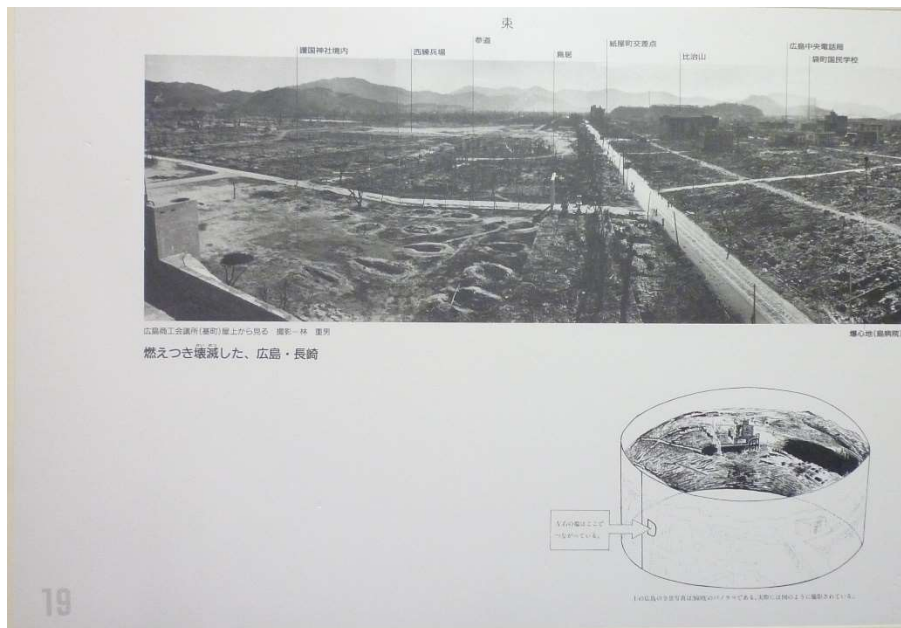


15 救援トラックの上で—広島
 空襲後—空襲をへて一歩も動けなくなった数人が暮らした町（広島）の焼け跡に、支援を待つ人々が見え隠れしている。1945年8月10日（午前）撮影。撮影—山崎寛治

NO. 15

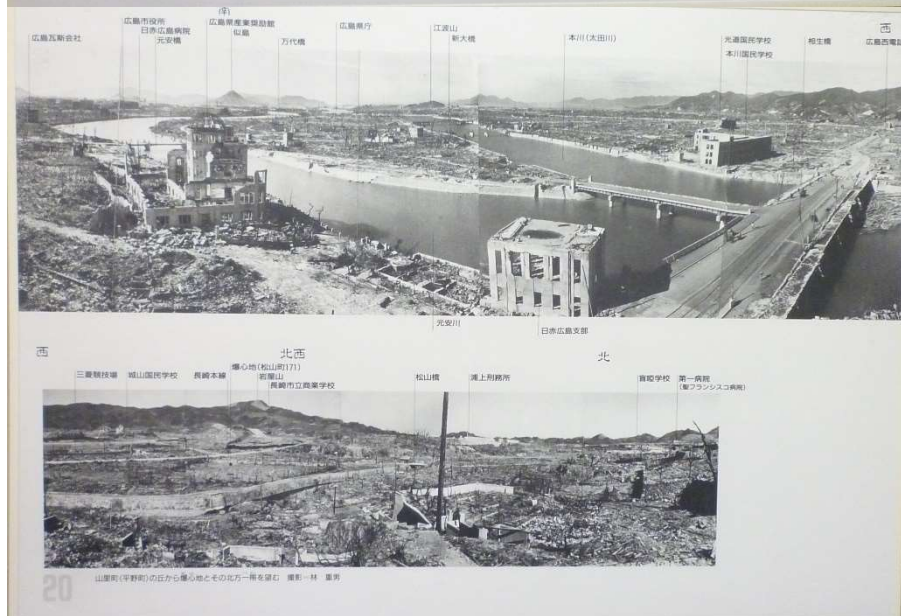
救援トラックの上で 広島





NO. 19

燃え尽き、破滅した
広島・長崎



NO. 20

山里町(平野町)の丘から
爆心地とその北方一帯を
望む



NO. 21

振興善国民学校屋上から、
長崎駅東方繁華街一帯を
望む



22

相生橋 広島

空中の爆発から急降してきた爆風は、橋の下を通り抜け橋げたを1メートル以上もちあげ、落下させた。手前に突き出ているのは橋げたの下にあった通風の排水取り入れ口とその排水管。道路も突き壊れた形で残った。1945年10月上旬。撮影：林 重男

NO. 22

相生橋 広島



23

木造家屋 広島

長崎東満ちの比治山の北麓のため、地上へ落ちた爆風はさきざきと、上空からの爆風は通を打って押し寄せ、一定の距離をたいて家屋を破壊し、屋根瓦をむしりとった。爆風が中心部を通過した後も、1945年10月11日。撮影：松本栄一(左)

NO. 23

木造家屋 広島



24

浦上天主堂 長崎

轟音が響く一瞬、柱と壁が崩れ、天主堂も、爆風とその後の火災により完全に破壊された。1945年8月15日。撮影：松本栄一(左) 天井も崩壊にずれ落ちた。破壊された天主堂に集まっていた主任司祭以下30数人の信徒も全滅した。1945年10月中旬。撮影：林 重男(右)



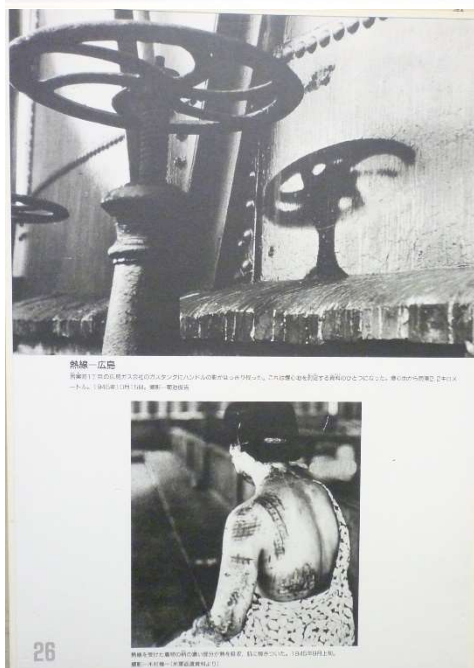
NO. 24

浦上天主堂 長崎



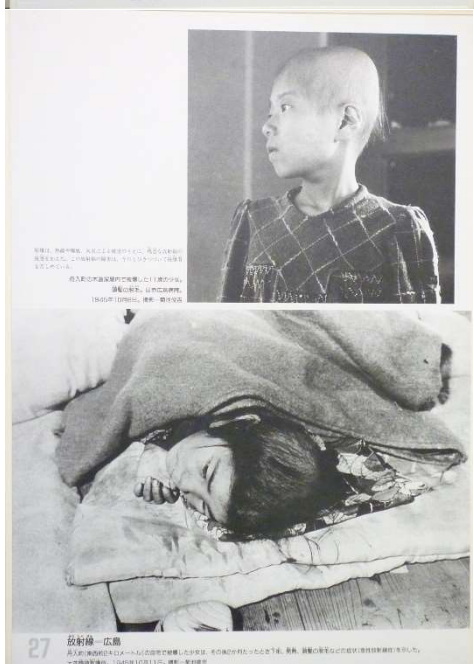
NO. 25

熱線 長崎/人影 広島



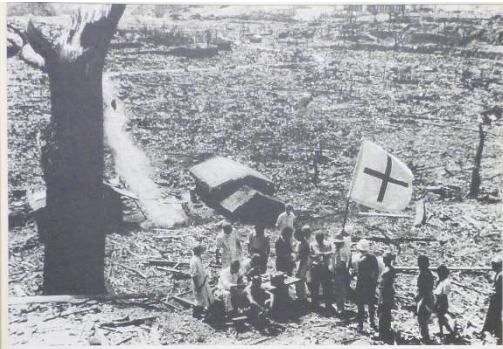
NO. 26

熱線 広島



NO. 27

放射線 広島



救援—長崎
被災者の救援、支援にあたる九州大学医学部付属病院。専心給付中。

[illegible]

(正三城址(豊からBGMメートル)近く)に豊小を建てて、1本道の
の角館は開校も理る。
この2本の考案は1545年8月下旬から9月上旬にかけて、九州太
学医学部附属医史の刊行記者によって進められ、8月10日から毎日
刊行された日本書に掲載された。古戦場によるプレス・コート(原
地など)を禁じた戦場(豊)が発表される意図であった。



NO. 28

救援 長崎



29 作業服—長崎
着心地から約1.2キロメートルで就寝した作業者の作業服。熱線の透孔部分が焼け、腰から肩にかけて塩と灰の跡が残る。



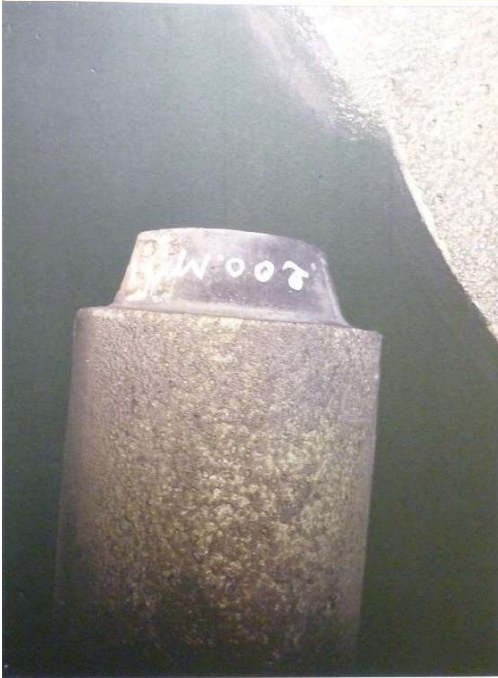
20 熱線を受けた竹 広瀬・長崎



31 火鉢—長崎
黒釉の土器で、口縁部が広く開いた。

NO. 31

火鉢 長崎



32 瓦—長崎
黒釉の土器で、口縁部が広く開いた。黒釉の土器で、口縁部が広く開いた。

NO. 32

瓦 長崎



33 びん—長崎
黒釉の土器で、口縁部が広く開いた。

NO. 33

びん 長崎



NO. 34

ガラスと手の骨 長崎



NO. 35

皮膚と生爪 広島



NO. 36

すっかり売れなくなった魚/
ビキニ水爆実験被災



23人全員が放射能で汚染



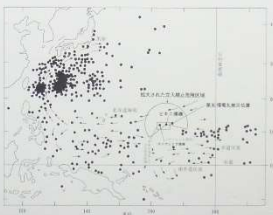
太平洋が広動に市場とされたとき、然しを避けて、この島嶼からとって点や海の(保野)林を有するにない、市場とされたものはすべて捨てられた。1754年、博覧-島の(保野)林

NO. 37

23 人全員が放射能で汚染/放射能で汚染



久保山愛吉さんの死 9月23日、世継の久保山愛吉さんがなくなった。「おふく」の村長は「わたしを最後にしてほしい」と書翰のこして、遺体は三人の山に埋められた。おふくは泣き止まらなかつた。1950年10月25日、愛吉の墓が完成した。



38

NO. 38

久保山愛吉さんの死



原水爆禁止署名と第1回原水爆禁止世界大会



日本をはじめ韓国に反対する運動が世界に広まり、著名運動の広がりの中で、相撲場禁止世界大会が8月0日から6日まで広島で開かれた。大会には18ヵ国38団体252人の海外代表と2,576人の日本代表が参加した。1965年8月6日、発行—中国新聞社

NO. 39

原水爆禁止署名と
第1回原水爆禁止世界大会



日本は核戦争の前線基地—アジア・太平洋の非核化を—

アメリカの海洋戦略のもとで、アジア・太平洋地域の核戦力は増強され、日本はアメリカの核戦争戦略のうえでの重要拠点とされている。
神奈川県横須賀基地は、広島原爆の約800発分の核兵器を搭載する米核空母ミッドウェーの母港とされている。横須賀は世界でただ一つ、アメリカの航空母艦の海外母港とされ、さらに最新鋭空母への交替も計画されている。空母の母港化により、国民はさまざまな被害をうけている。ミッドウェー艦載機の墜落事故、夜間離発着訓練（NLP）による騒音公害、被害をうけている。ミッドウェーと基地に反対する周辺住民の運動が高まっている。三宅島への訓練基地建設、選手への米軍住宅建設に対しても、住民の強い反対が起きている。



46 アメリカ海軍ジェット機の夜間離発着訓練（NLP）基地建設に反対する三宅島島民たち。1999年2月15日。提供—日本平和委員会



アメリカの海軍ミッドウェー艦載機の飛行訓練につけられる騒音基地にむけて、抗議に駆動活動をつづける市民。1995年。提供—日本平和委員会

	施設数	面積 (ヘクタール)
全国の米軍基地	106	330,740
内 本土施設	62	82,350
訳 沖縄施設	44	248,390

この他に約40ヶ所の自衛隊施設、演習場を米軍が共同使用している

NO. 46

日本は核戦争の前線基地—アジア・太平洋の非核化を—

非核三原則がふみにじられている

日本の海や空には、アメリカの核兵器搭載可能な艦船や軍用機がひんぱんに出入りし、核トマホーク（巡航ミサイル）搭載可能な原子力潜水艦の寄港も年々増えている。「アメリカの核艦船が日本に寄港するときに核兵器をおろすことはない」とアメリカの高官（ライシャワー元駐日大使やワシントン元海軍提督など）はたびたび発言している。山口県の岩国基地には'83年まで核兵器を扱う専門部隊がおかれ、沖縄・辺野古弾薬庫には海兵隊の核兵器専門部隊が常駐している。

日米間に核兵器もち込みに関する秘密合意があることが、1987年4月、日本共産党の調査で暴露された。日本の国策である非核三原則（核兵器をもたず、つくらず、もちこませず）は守られてはいない。



NBC（核・生物・化学）兵器輸送（放射線、毒ガス、細菌など）兵器につけられた警告を想定し、防護マスクを着用しての訓練。1997年3月。提供—沖縄県民連帯会

NO. 47

非核三原則が
ふみにじられている



47 アメリカ艦船への核兵器搭載の巡航ミサイル・トマホークの搭載がすすみ、核兵器搭載艦が他の有刺を明らかにしないで入港している。京都・舞鶴での抗議行動。1994年5月。提供—連合漁協

■日本に寄港するアメリカ艦船の核搭載能力

◆原子力
核搭載艦20隻、B-1B、B-2など約100隻
核搭載艦40隻を10-12隻

◆巡航ミサイル・艦搭載艦
艦搭載ミサイル「トマホーク」搭載艦20隻、約100隻
巡航ミサイル「トマホーク」搭載艦20隻、約100隻

◆攻撃型原子力潜水艦
攻撃型ミサイル「トマホーク」搭載艦20隻、約100隻
（核兵器搭載艦20隻、約100隻）

■増える原子力潜水艦の寄港

艦名	原子力潜水艦	寄港	寄港
1987	22	19	47
1997	25	22	47

（資料—ロッキード・マコード）



自衛隊と自衛隊員。またはアメリカの軍用機が飛来した際との合同演習が日本の国土でくりかえされる。1999年11月。撮影—一般市民

核戦争をたたかう米軍の戦闘に参加する自衛隊

1978年11月アメリカと日本政府の間に「日米防衛協力指針（ガイドライン）」が策定されて以来、海・空・陸、日本中で核戦争をも想定した日米合同演習がくりかえされている。それはアメリカ軍と自衛隊がいつでも共同作戦をおこなえる段階に入りつつあることを示している。

48

■1987年の主な日米合同演習

演習名	参加国	内容
1. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
2. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
3. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
4. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
5. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
6. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
7. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
8. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
9. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
10. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
11. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
12. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
13. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
14. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
15. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
16. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
17. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
18. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
19. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習
20. 1987年11月 日米合同演習	日米	日米合同演習



富士山の麓には広大な演習場がひろがる。平和な富士をとりもどすとの行動。

NO. 48

核戦争をたたかう米軍の
戦闘に参加する自衛隊



NO. 49

核戦争のための通信網

核戦争のための通信網

核戦争を実行にたたくために、宇宙から地球にいたるところに通信網がはりめぐらされている。コンピュータを駆使し人工衛星によるこの通信ネットワークは、C3I（シー・三・アイ）コマンド＝指揮、コントロール＝統制、コミュニケーション＝通信、インテリジェンス＝情報）とよばれ、日本列島にもはりめぐらされ核戦争の神経中枢をなしている。また、アメリカがすすめるSDI（戦略防衛構想＝核弾道を宇宙にまでひろげるスターウォーズ計画）にも、これらの通信網が不可欠である。日本政府は、多くの科学者の反対にもかかわらずSDI共同研究に参加する。



和歌山県に核攻撃の被害報告をつたえる通信網の一端をみる。大和川のアメリカ軍通信基地（埼玉県草加市）。

世界で10億をめざす「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名運動

被爆40周年の1985年2月、世界12ヶ国の反核・平和運動組織の代表が、広島と長崎から核兵器廃絶を訴える「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」を世界にむかって発表し、その支持署名をよびかけた。「アピール」支持署名は、全人類の緊急・死活的課題である核兵器廃絶のために諸国民の世論を高め結果する大きな力をもっている。

いま、「アピール」支持署名は世界150ヶ国にひろがり、日本では2800万を超え（88年2月末）、国民の過半数を目標に運動がとくまれている。1987年8月の原水爆禁止世界大会では、世界で10億の「アピール」署名をめざすこと、核兵器廃絶を共通課題とし「アピール」署名を共同行動とする「平和の波」運動を世界中でとりくむことが決議された。



世界で10億の「アピール」署名運動を支援した。1987年原水爆禁止世界大会・長崎。1987年6月9日。



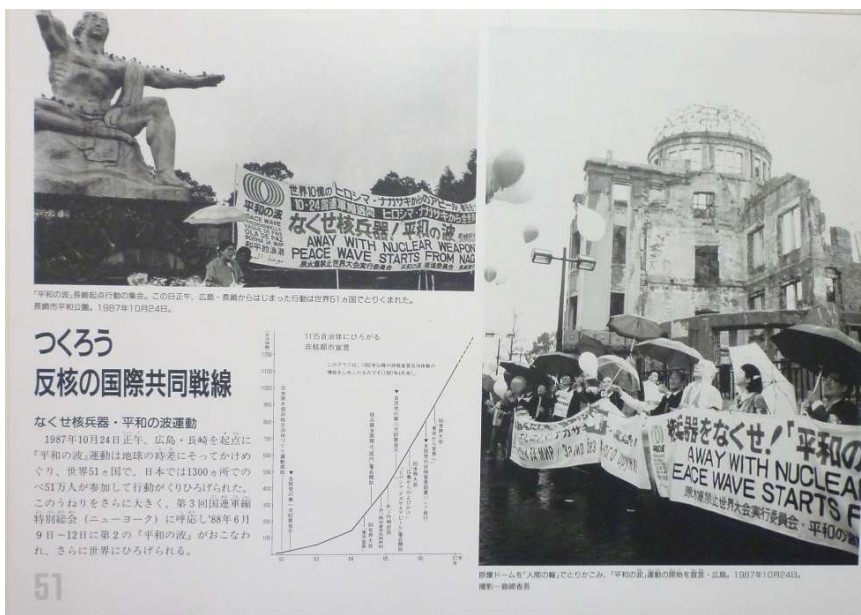
「ヒロシマ、ナガサキからのアピール」発表のあと、長崎市内で署名をよびかける長崎の反核平和運動の代表。1985年。



和歌山県に核攻撃の被害報告をつたえる通信網の一端をみる。大和川のアメリカ軍通信基地（埼玉県草加市）。

NO. 50

世界で10億をめざす「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名運動



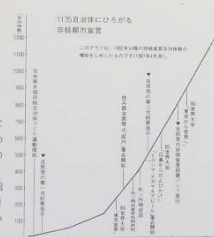
NO. 51

つくろう反核の国際共同戦線

つくろう反核の国際共同戦線

なくせ核兵器・平和の波運動

1987年10月24日正午、広島・長崎を起点に「平和の波」運動は地球の時差にそってかけめぐり、世界51ヶ国で、日本では1300ヶ所でのべ51万人が参加して行動がくりひろげられた。このうねりをさらに大きく、第3回国連軍縮特別総会（ニューヨーク）に呼応し'88年6月9日～12日に第2の「平和の波」がおこなわれ、さらに世界にひろげられる。



原爆ドームを背景に人々の輪ができていく。「平和の波」運動の開始を告げる。広島。1987年10月24日。

51

大切なことは、世界の反核・平和の世論と運動が、核兵器にしがみつく勢力を包圍し孤立させた、核兵器廃絶のための合意と国際協定を促してきたことなのです。そのために、核兵器廃絶を緊急の課題として掲げ、この課題と核戦争防止、核軍縮の二つの個々の課題とを結びつけて運動してきたのです。反核の国際的同盟機構をつくることとがめざられてきました。昨年8月の原水爆禁止世界大会はこの方向から大きく大きな結果の場となっていました。そして、世界で10億の「ヒロシマ・ナガサキへのアベル」署名を集める活動は、諸国民の声を行動をつづいて地球をおう平和の波となり、核兵器廃絶の実現のために貢献することでしょう。

●協力

広島平和文化センター
広島平和記念資料館
長崎国際文化会館
第五福竜丸平和協会
反核写真運動
平和博物館を創る会
広島平和教育会

・複製・転写を禁じます。 33-5

[illegible]

第二のヒロシを、
第三のナガサキを、

地上のいすれの地にも出現させてはなりません。

いまも私たちは、核兵器全面禁止・廃絶を求めます。すなわち、核兵器の使用、実験、研究、開発、生産、配備、貯蔵のいさいの禁止を、すみ

やかに実現させましよう
一九八五年二月六日 広島にて

